

## 2008 年度／教育学部自己点検・評価報告書

### 【1】2009 年度カリキュラム改定の考え方と具体的制度について

今回のカリキュラム改定は、大学全体として、創価コアプログラムの導入に伴うものであるが、教育学部は、その教育的機能の一環として、教員養成をおこなっており、2007 年度入学者に4年間一貫したカリキュラムで教育をおこなう必要があるため、コース制の導入などカリキュラム全体を大きく変更することなく、創価コアプログラム導入によって学士課程教育の充実をはかるという観点から、履修上のシークエンスとスコープを見直していくという改定をおこなった。その主なものは以下のとおりである。

(1)教育学部の基幹科目としては、両学科におかれている教育学基礎コースである教育学概論Ⅰ・Ⅱ(教育学科1年)、初等教育原理Ⅰ・Ⅱ(児童教育学科1年)、さらには、教育心理学Ⅰ・Ⅱ:教育(教育学科2年)、教育心理学Ⅰ・Ⅱ:児童教育(児童教育学科2年)があり、これに加えて、基礎演習があげられる。

このうち、教育学概論Ⅰ・Ⅱおよび初等教育原理Ⅰ・Ⅱについては、履修者の増加に伴い、それぞれ、2クラス編成でおこなっている。これによって、1クラス約50人という比較的小規模クラスでの授業が可能になった。担当教員の負担は二倍になったが、これを是正するために、2009年度より新たに専任教員2名の補充をおこなうこととなった。

教育心理学Ⅰ・Ⅱ:教育、教育心理学Ⅰ・Ⅱ:児童教育については、教育学概論Ⅰ・Ⅱおよび初等教育原理Ⅰ・Ⅱと同様に、2009年度よりそれぞれ、2クラス編成でおこなうこととなった。ただし、担当教員の負担が倍増することは避けられず、この解消は次年度以降の課題である。

(2)基礎演習については、これまでの実績を踏まえた上で、コース設計について以下のような改定をおこなうこととなり、2009年度カリキュラムから実施する。

- ①あくまで教育学部でおこなう教育学の基礎演習であって、高校までの補習教育でもなければスキル・トレーニングでもないこと。
- ②クラス・アドバイザーが一貫して15回の授業をおこなう。カリキュラムのシークエンスとスコープは同一であるが、進め方についてはアドバイザーの裁量(たとえば、実際に教えている最中に、「テキスト読解」を少し長くするという判断をするなど)を認める。
- ③それぞれのクラスをプロジェクト学習として、特定のテーマにしたがって授業を進める。このテーマはクラス・アドバイザーが(他のアドバイザーとの協議のもとで)決定する。たとえば、「家庭と学校の連携の現状と課題」というテーマでは、「図書館ガイダンス」としての内容を含め、「このテーマに関連した情報を集めるために図書館をどのように利用するのか」というガイダンスとなる。「テキスト読解」のテキストもこのテーマに関連したテキストをアドバイザーが選ぶことになる。以下、「レポート作成」から「プレゼンテーション」へと進んでいく。
- ④成績評価は通常のABC評価とする。
- ⑤1クラスに1人のSAを配置する。これは、最初の授業から入れるように、3月の段階で

候補者を決定しておく。

⑥ 再履修者は再履修クラスではなく、それぞれの1年生のクラスに入る。

(3) 演習と卒業研究についても、従来から、その配当学年や指導のあり方について、教授会で種々、意見が出されてきた。これを受けて、検討委員会が発足したが、構成委員の一部が教職大学院の所属となったために、あらためて学部だけの委員会を発足させた。その検討結果は2009年3月度の教授会で報告され、これをもとに1年間かけて、抜本的な改革をおこなう。

## 【2】人材養成の達成度の把握（新カリキュラムの評価方法）

教育学部では以下の論点が人材養成の達成度の把握との関連で議論されている。

### 1. 学部教育の目的について

- ① アドミッション・ポリシーの共有
- ② 現行の入学者選抜方式の検討、とりわけ選考についての学部共通の基準の設定
- ③ 学部・学科の人材の養成に関する目的さらに教育・研究上の目的の共有

### 2. カリキュラム改革について

- ① 教養教育・専門教育・教職教育の関係（卒業要件単位数および単位配分）
- ② スcopeとシークエンスの明確化
- ③ 教育学の導入教育としての基礎演習の実施
- ④ 演習の位置づけ（配当学年や性格・目的の再定義を含む）
- ⑤ 多元的な成績評価の採用と統一的な成績評価基準の設定

### 3. 学士課程教育および学部教育の成果について

- ① アウトカム評価についての問題意識の共有（就職率、大学院進学率、教員採用試験の合格率、4年間での卒業率・中退率、ポートフォリオ評価、授業アンケート結果、学生満足度調査や卒業生評価など、さらには、これらの指標の採用にはどのような負の側面があるのか）
- ② 卒業時の学力認定（GPA+卒業研究+卒業時点の知識+ $\alpha$ 、これらと形成的評価との関係はどのように考えればよいのか）